



平成 28 年 1 月 4 日

独立行政法人国立科学博物館

「日本での自生は西表島の 1 集団のみ! ナガミカズラ」が開花!!

国立科学博物館筑波実験植物園(園長 岩科 司)において、ナガミカズラ(イワタバコ科)が開花しました。

今回、開花したナガミカズラは当園で 2009 年から栽培しているもので、今回初めて開花しました。国内における日本産ナガミカズラの植物園等での開花は珍しく、今回が 3 例目となります。花は 1 月 11 日頃までご覧になれます。

ナガミカズラは国外では台湾、中国、インドネシアなど広く分布しますが、国内では 1973 年に西表島で採取された枝葉のみの標本がナガミカズラと同定されて以来、2004 年に自生が確認されるまで 31 年間、その存在が確認されていませんでした。現在のところ、国内ではその 1 集団しか知られていません。その希少性から、今年度、環境省の定める国内希少野生動植物種にも指定されました。また、その集団は種の北限ともなっており、系統地理学的にも貴重なものとなっています。ぜひ、この機会にこの貴重な植物の開花をご覧ください

つきましては、本件について、取材・記事の掲載など広報に関して特段のご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

※ナガミカズラについては、別紙をご参照ください。

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

経営管理部研究推進・管理課研究活動広報担当：西田 幸男

担当研究員：國府方吾郎(植物研究部 多様性解析・保全グループ)

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL:029-851-5159 FAX:029-853-8998

E-mail: tbjimu@kahaku.go.jp

国立科学博物館HP

<http://www.kahaku.go.jp/>

国立科学博物館筑波実験植物園HP

<http://www.tbg.kahaku.go.jp/>

ナガミカズラの開花について

1. ナガミカズラについて

学名：*Aeschynanthus acuminatus*（エスキナンツス・アクミナトウス）

科名：イワタバコ科

分布：日本（西表島）、台湾、中国、ヒマラヤ、インドネシア

特徴：常緑の半つる性多年草。植物体は樹上、岩上などに這うように着生し、その先端付近に緑色～オレンジ色の筒状花をつける。果実が約 15cm と細長く、それが和名の由来になっています。

2. 今回の開花について

開花日：平成 27 年 12 月 24 日（木）から咲き始めました。

花の見ごろ：平成 28 年 1 月 11 日（月・祝）頃まで

植栽場所：当園多目的温室内

当園での開花：2009 年栽培を開始してから初めて



植物の全景



花の写真

「ナガミカズラ」とは？

ナガミカズラはイワタバコ科ナガミカズラ属に属する植物で、日本（西表島）、台湾、中国、ヒマラヤ、インドネシアと広く分布する半つる性多年草です。同属の他種はエスキナンツスとして園芸にも利用されています。

自生地では樹上や岩上などに這うように生育します（下写真）。葉は、楕円形で、茎の節から2枚が対に出て、鋸歯の無い縁と鋭く尖った先端をもちます。花は葉と茎の間から出る腋生で、緑色～オレンジ色、鐘形、先端部分で上部と下部にわかれ、上唇はさらに2裂、下唇は3裂します。果実は長さ15cm程の細長い先の尖った形をしており、完熟すると裂開して長い毛束を両端につけた小さな種子を多数とばします。

1973年に西表島で1個体が約1㎡の広がりをはしているものが観察されましたが、その後は発見箇所を含めて自生が確認されていませんでした。しかし、2004年に先に発見された自生地とは別の場所で新たな群落が発見され、31年ぶりの確認となりました（高知県立牧野植物園 小林 史郎・国立科学博物館筑波実験植物園 國府方 吾郎、日本植物分類学会誌 2005）。その希少性から平成27年度に環境省の定める国内希少野生動植物種に指定されました。日本産ナガミカズラの国内の植物園などにおける開花はめずらしく、今回が3例目（2008年高知県立牧野植物園、2010年沖縄美ら島財団に続き3例目）となります。



西表島自生地のナガミカズラ